

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
2年	95	老年看護学援助論
3年	135	地域包括ケア論

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMd02				
			●		●					
科目名	老年看護学援助論				単位 認定者	齋藤 美華 桑田 恵美子		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	加齢に伴う変化と生活機能への影響を踏まえ、住み慣れた地域で、高齢者が生き生きと生活するための援助方法を学修する。高齢者の生活機能の評価方法、健康維持と介護予防方法、さらに受療状況に応じた看護を学ぶ。高齢者に提供する多様な生活支援・介護予防サービスや看護と介護の協働、多職種連携等の老年看護の実践に必要な基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 高齢者の生活機能の評価と健康維持と介護予防について説明できる。 2. 高齢者の加齢に伴う変化とそれに伴う生活機能への影響について説明できる。 3. 高齢者の健康段階に応じた看護を説明できる。 4. 多様な生活の場における高齢者の健康を支える看護について説明できる。 5. 認知症について理解を深め、当事者、家族をサポートするための看護師の役割について説明できる。									
学修者への期待等	・老年看護に関する既習の知識を確認して臨んでください。事前に教科書を読んでくること。 ・老年期の看護過程の展開を通して高齢な対象の健康問題を査定し、看護計画立案に必要な基礎的知識を身につけることを期待します。特にアセスメント能力はしっかり身につけましょう。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	高齢者の生活―生活機能と評価と高齢者の健康生活の維持と支援					事前学修：「老年看護学概論」の講義資料と教科書を復習した上で授業に臨む 事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		60	60	齋藤 美華
2	高齢者の健康段階に応じた看護―健康維持・増進と介護予防					事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華
3	高齢者の健康段階に応じた看護―受療状況に応じた看護					事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華
4	高齢者の健康段階に応じた看護―急性期、回復期					事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華
5	高齢者の健康段階に応じた看護―慢性期、薬物療法					事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する		0	60	齋藤 美華
6	高齢者の健康段階に応じた看護―End-of-life Care					事後学修：授業後の学び「高齢者のEnd-of-life Care」の考察を提出		0	60	齋藤 美華
7	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護―在宅・介護保険施設・多職種連携 等					事前学修:教科書「地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護」を読んで臨む 事後学修：授業内の学びの提出		30	30	桑田 恵美子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
8	地域で暮らす高齢者の生活を支援する地域包括支援センターの役割	事後学修：授業内の学びの提出	0	30	桑田 恵美子
9	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援 ー認知症当事者と家族、認知症当事者と家族の会から学ぶー	事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する。授業後の学び「認知症の人への支援」の考察を提出	0	90	齋藤 美華
10	認知症の人も家族も安心して暮らせる支援方法	事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する	0	60	齋藤 美華
11	高齢者の生活機能を整える看護援助の意義ー高齢者のもてる力をアセスメントする視点 健康と生活への影響	事後学修：授業後には教科書と配布資料を用いて要点を復習する	0	60	齋藤 美華
12	老年期の看護過程ー分析 (問題の原因・援助の必要性・解決の方向性)	事後学修:事例を読み、『情報の解釈』をする	0	60	桑田 恵美子
13	生活機能障害のある高齢者の看護ー老年期の看護過程-事例のアセスメント	事前学修:事例を読み、『情報の解釈』をする 事後学修:グループワークで得た学びをもとに加筆・修正する	90	90	桑田 恵美子
14	生活機能障害のある高齢者の看護ー看護問題の抽出	事前学修:事例を読み、『情報の解釈』をする 事後学修:グループワークで得た学びをもとに加筆修正。 『看護問題の明確化』の検討	90	90	桑田 恵美子
15	生活機能障害のある高齢者の看護ー老年期の看護過程の視点-看護計画の立案・まとめ	事前学修:『看護問題の明確化』と『看護目標』の検討 事後学修:『看護計画の立案』	60	90	桑田 恵美子
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 老年看護学①：高齢者の健康と障害』堀内ふき他編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 老年看護学②：高齢者看護の実践』堀内ふき他編、メディカ出版 『国民衛生の動向2025/2026』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会				
参考文献	『高齢社会白書』内閣府編、内閣府 『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』山田律子他編、医学書院				
備考	・授業内課題は、授業後の学び(10%)、看護過程の完成度(30%)で評価する。 ・授業内課題は次回の授業でフィードバックする。 ・第8回はゲストスピーカー（高橋秀仁先生）を招き、講義を展開する。 ・第13～15回はグループワーク形式で授業を行う。 ・第12～15回非常勤助手: 高橋静子				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

担当教員は老年看護学分野で5年以上の実務経験と、看護師としての資格を有しており、その経験を活かして老年看護学の実践に必要な基礎的知識・技術が修得できるよう教授します。（齋藤・桑田）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMb05				
		●	●		●					
科目名	地域包括ケア論				単位 認定者	真溪 淳子		評価の方法	試験 (筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	60 %
						授業時間数	15 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	地域包括ケアシステムの目的・意義、関連する保健医療福祉制度を理解し、個人・家族が住み慣れた地域で生涯生活する仕組みについて学ぶ。地域包括支援センターの役割・機能について理解を深め、個人・家族を中心として、グループ・関係機関・多職種・専門職が連携し協働する方法、看護職の役割など、地域包括ケアに関する基礎的知識を学修する。									
到達目標	1. 地域包括ケアシステムの理念を理解し、関連する諸制度について説明できる。 2. 地域包括支援センターの役割と機能について説明できる。 3. 地域包括ケアにおける高齢者への支援と多職種連携について説明できる。 4. 地域包括ケアにおける障害者・子どもへの支援と多職種連携について説明できる。									
学修者への期待等	誰もが可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を送り続けられるように、地域の実情に合わせた地域包括ケアシステムの構築が求められています。患者、住民を支援するための多職種連携において、看護職として役割を果たせるよう、地域包括ケアシステムについて理解を深めてください。									
回	授業計画・学修の主題					準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
1	地域包括ケアシステムの理念					事前学修：地域包括ケアシステムの背景と理念について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	真溪 淳子
2	地域包括ケアシステムを取り巻く保健医療福祉の制度					事前学修：地域ケアシステムに関する関係法規と制度について教科書を読んで授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	真溪 淳子
3	介護保険制度における地域包括ケアシステムとケアマネジメント					事前学修：介護保険制度と地域包括ケアシステムの機能について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	真溪 淳子
4	地域包括支援センターの役割と機能					事前学修：授業で提示するテーマについて下調べをする。 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	手塚 有希子
5	地域包括ケアにおける障害者への支援					事前学修：授業で提示するテーマについて下調べをする 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する		30	30	手塚 有希子

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当教員
6	地域包括ケアにおける子どもへの支援	事前学修：授業で提示するテーマについて調べをする 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	手塚 有希子
7	地域包括ケアにおける多職種連携 ①高齢者を対象とした多職種による模擬会議	事前学修：高齢者支援に関する関係職種と多職種連携について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子
8	地域包括ケアにおける多職種連携 ②障害者・児を対象とした多職種による模擬会議	事前学修：障害者・児支援に関する関係職種と多職種連携について教科書を読み授業に臨む 事後学修：授業で取り上げたポイントについて復習する	30	30	真溪 淳子 東海林 美幸 手塚 有希子
アクティブ・ラーニング	☐ 該当なし ☒ 該当あり：キーワード（グループワーク）				
教科書	『ナースィング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、MCメディカ出版				
参考文献	なし				
備考	授業内課題は各回の提出物で評価し、次の授業の中でフィードバックを行います。 第7・8回の授業では多職種連携についてのグループワークを行います。 第5回はゲストスピーカー（坂本由郁）を招き、授業を行います。 第6回はゲストスピーカー（平原真紀）を招き、授業を行います。				

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は保健師の資格と行政保健師・産業保健師等として17年間の実務経験を有しており、その経験を活かして学生が地域包括ケアの実際について理解を深められるように授業を行います。（真溪）